立命館大学人間科学研究所・立命館大学生存学研究センター主催

公開講座 シネマで学ぶ「人間と社会の現在」シリーズ６

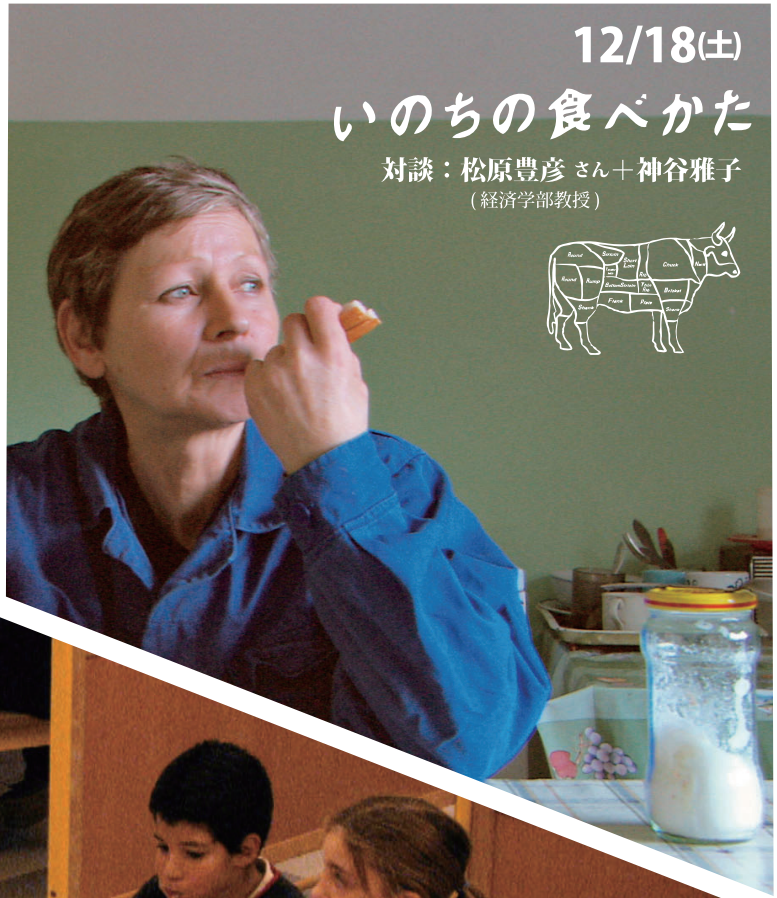
企画コーディネート：神谷雅子（京都シネマ代表、産業社会学部・教授）/ 中村正（応用人間科学研究科・教授）

立命館創始 140 年
学園創立 110 周年
記念

今日の夕食何にしようか？ー食べることの＜政治＞

11/13(土)
ダーウィンの悪夢
Darwin's Nightmare

対談：小川さやか さん＋神谷雅子
（国立民族学博物館 研究戦略センター機関研究員）



12/18(土)
いのちの食べかた

対談：松原豊彦 さん＋神谷雅子
（経済学部教授）

1/15(土)
未来の食卓

対談：田畑泉 さん＋中村正
（スポーツ健康科学部教授）

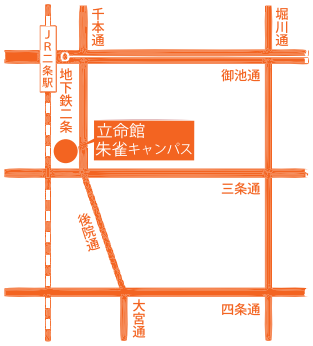
会場：立命館朱雀キャンパス 5F 大講義室（ホール）

参加費：一般￥800　立命館大学教職員・学生 / 京都シネマ会員￥500

時間：13：00 開場 13：30 開演（16：30 終了予定）

当日 13：00 よりチケットの販売を開始します（事前の受付及び整理券の配布はございません）

＊駐車場・駐輪場がございませんので、ご来場には公共交通機関をご利用下さい。
＊満席の場合ご入場を制限させていただくこともございますのでご了承ください。



お問い合せ先：立命館大学人間科学研究所　事務局
〒603-8577　京都市北区等持院北町 56-1
TEL：075-465-8358　FAX：075-465-8245
E-mail：ningen@st.ritsumei.ac.jp
URL：http://www.ritsumeihuman.com/

主催：立命館大学人間科学研究所、立命館大学生存学研究センター
共催：京都シネマ / 協賛：株式会社オリエントコーポレーション
協力：ビターズ・エンド、エスパース・サロウ、アップリンク

本企画は、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「大学を模擬社会空間とした自立支援のための持続的対人援助モデルの構築」とグローバル COE プログラム「生存学」創成拠点の研究成果として広く社会に発信するものです。

「今日の夕食何にしようか？－食べることの＜政治＞」の開催にあたって

この公開講座は、映画が表象する「関係性の様態」を読み解きながら、「人間と社会の現在」について考える機会にしたいと願い企画されています。これまで、シリーズ１「現代家族の不安と再生」、シリーズ２「『裁き』のその後で－加害といかに向き合うか」、シリーズ３「親密だから見えないこと－『羅生門的現実』を生きる」、シリーズ４「生きがたさのなかで－子どもと希望」、シリーズ５「ひとりだけど、ひとりじゃない－虚構というリアル」を企画してきました。上映後の対談や講義とあわせて、時には奇想天外で、たまには刺激的な、どちらかといえば胸さわぎのする発想に学びつつ、私たちの視界を広げる試みとして位置づけています。この企画は、結論のないあるいは結論がひとつではない 対話を楽しむ「道楽」としてのシネマ人間学を楽しもうとするものです。

さて、味覚と勉学のための晩秋、シリーズ６は「今日の夕食何にしようか？－食べることの＜政治＞」です。是非、お越し下さい。

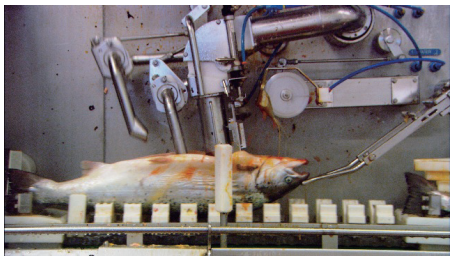
上映作品紹介

一匹の魚から始まる、悪魔のグローバリゼーション！

11 月 13 日 (土) 『ダーウィンの悪夢』
2004/ フランス・オーストリア・ベルギー /112 分 / ビターズ・エンド
監督：フーベルト・ザウパー

アフリカ・ビクトリア湖に何者かが放った外来魚ナイルパーチによって、湖の生態系に狂いが生じ、湖周辺のみならず、世界の産業や暮らしを変えていく様子を克明に描いた衝撃のドキュメンタリー。一つの大魚によって湖が激変する様子が、大国主導のグローバリゼーションによって変わっていく地球の姿を連想させる。監督は 93 年より、世界各地でドキュメンタリーを製作してきたフーベルト・ザウパー。

知っているようで、実は知らない…現代の食料生産事情がここにある！



12 月 18 日 (土) 『いのちの食べかた』
2005/ ドイツ・オーストリア /92 分 / エスパース・サロウ
監督：ニコラウス・ゲイハルター

誰もが毎日のように口にしている肉や魚、果物や野菜といった食べ物が、どのようにして食卓へと辿り着くのかを追ったドキュメンタリー。近年、食糧生産の現場では、大量生産のために家畜や魚までも機械で管理せざるを得ない状況となっている。オーストリアのドキュメンタリー作家が 2 年の歳月をかけてその現場を取材し、作業の様子を淡々と綴ることで、“いのちを食べる” ことの真実を浮き彫りにしていく。

お金より命が大切だと、南仏の小さな村から始まった奇跡の実話！

1 月 15 日 (土) 『未来の食卓』
2008/ フランス /112 分 / アップリンク
監督：ジャン＝ポール・ジョー

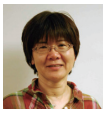
フランスの小さな村を通じ、子供の未来を脅かす食物汚染や環境汚染を訴えるドキュメンタリー。フランス南部に位置するバルジャック村では、村長と村民の熱心な働きかけにより、小学校の給食を全てオーガニック化するという前例のない施策が講じられている。国民の健康よりも生産者や企業の利益を優先する現代の食産業の実態に真正面から触れ、人間と自然の調和をスクリーンに美しく描き出した意欲作。

講師プロフィール

・小川さやか（おがわさやか）さん・・・国立民族学博物館研究戦略センター機関研究員。専門は、文化人類学、アフリカ地域研究。『都市を生き抜くための狡知』（印刷中：世界思想社）、論文「都市零細商人の経済活動における連帯と生活信条」（『アフリカ研究』No.64、日本アフリカ学会）など。

・松原豊彦（まつばらとよひこ）さん・・・経済学部教授。専門は、農業経済学、アグリビジネス。『カナダ農業とアグリビジネス』（法律文化社）、『現代の食とアグリビジネス』（有斐閣、共編著）、『ヒトと動物の関係学２　家畜の文化』（岩波書店、共著）など。

・田畑泉 (たばたいずみ) さん・・・スポーツ健康科学部教授。専門は、健康科学、スポーツ科学。『メタボリックシンドローム解消ハンドブック』（杏林書院）、『健康検定』（日本経済新聞出版社）など。日本人の食事摂取基準（2010 年版、厚生労働省）の策定検討会構成員、エネルギー WG リーダーを兼務。



・神谷雅子 (かみやまさこ) ・・・産業社会学部教授。映画産業論などを講義。80 年代後半から「京都朝日シネマ」の運営に携わり 90 年同館支配人に。閉館後、04 年 12 月に新しいアート系映画館「京都シネマ」を代表としてオープン。『映画館ほど素敵な商売はない』（かもがわ出版）。

・中村正 (なかむらただし) ・・・産業社会学部・大学院応用人間科学研究科教授。専門は、臨床社会学、社会病理学、男性学。『家族のゆくえ』（人文書院）、『対人援助学の可能性－「助ける科学」の創造と展開』（福村出版、編著）、『ドメスティックバイオレンスと家族の病理』（作品社）など。